

# 平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年11月1日記入

基本目標	学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	11420
政策名(章)	第1章 安心して生活できる福祉社会をつくります	評価担当部	保健福祉部
基本施策名(節名)	第4節 援護を要する人の自立支援	評価担当課	地域福祉課
施策名	自立の援助	課長名	梅沢 道雄

## 1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

援護資金の貸付けなどにより、要援護者の自立に向けた援助を行う。  
生活困窮世帯に対する社会福祉協議会が実施する生活資金一時貸付や生活福祉資金利子補給への交付や、災害救助法の適用を受けない被災者に対する災害緊急特別融資制度により要援護者の自立の援助に努めている。

## 2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		2,937	災害緊急特別融資預託金の預託額の減少。預託金額を予算額全額から融資残額に見合った額に変更したことによるもの。(事業内容に変更なし) H14: 年度当初10,000千円預託、年度末10,000千円返還 H17: 年度当初1,000千円預託、年度末1,000千円返還
人件費		0	
市民一人あたりの事業費	18	4	
合計	11,099	2,937	

\*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

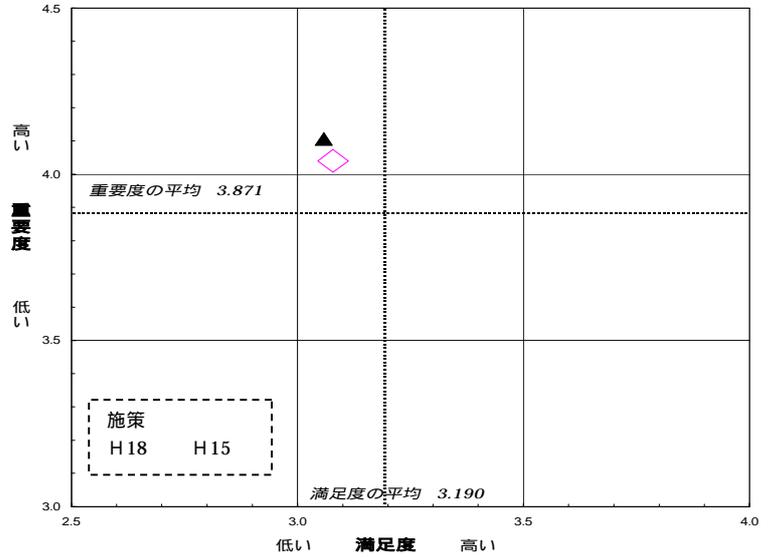
## 3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	生活資金一時貸付償還率	当該年度収納額 ÷ 当該年度返済計画額 × 100	33.6(%)	H16
指標2				
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	40 / 43.4	19	40%	21	40%	償還率により、自立支援の成果を測るもの。 H14～H16の平均値:36.4%
達成率	108.5%					
指標2						
達成率	#DIV/0!%					
指標3						
達成率	#DIV/0!%					
指標4						
達成率	#DIV/0!%					
指標5						
達成率	#DIV/0!%					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.079で51施策の中で40番目。  
 重要度は4.040で17番目である。  
 改善要望度は0.1982で13番目である。  
 年齢別にみると、満足度は70歳以上でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。  
 重要度は、順位で見ると30歳代で8位、60歳代で30位と年代の差がみられる。  
 前回調査と比較すると、満足度、重要度とも施策の順位に大きな違いはみられない。  
 満足度の順位では、20歳代、70歳以上で前回調査より上がり、30歳代で大幅に下がっている。  
 重要度の順位では、30歳代で前回調査より上がり、20、60歳代で下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	(4) 2 1	低所得者緊急援護貸付資金交付金をもとに実施している市社会福祉協議会の「生活資金一時貸付事業」により、支援を必要としている者の経済的自立と生活意欲の助長が図られている。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	(4) 2 1	災害緊急特別融資制度における預託金額について、14年度までは予算額全額預託していたが、15年度からは融資残額に見合った金額への変更を実施し、効率化を図った。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4(2) 1	市民満足度調査によると、平均値と比較して重要度が高く、満足度が低い事業となっている。平成18年度から新規借受者に対する「生活福祉資金利子補給交付金」を廃止し、より利用が多く、低所得世帯等の経済的自立支援・生活の安定のために必要性が高いと考えられる生活資金一時貸付事業に対する「低所得者緊急援護貸付資金交付金」を充実させるなど、市民ニーズに対応した事業展開を図っている。	
合計		10	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 A

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	
解決策	

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

設定された指標の目標値の水準が甘く高評価となっているが、構成事務事業が非常に限定的な事業で構成されているため、施策の成果を示すことが難しく、構成事務事業の検討が必要である。	2次評価 B
--	-----------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向



